

平成29～38年度の連系線の運用容量 (年間計画・長期計画)

平成29年 2月10日

(空白)

I-1. 平成29年度(2017年度)の連系線の運用容量(平日:昼間帯)

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①) [0(①)]	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) [0(①)]	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①) [0(①)]	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) [0(①)]	60(①)	60(①) [55(③)]	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線	東北向	64(④)	61(④)	62(④)	67(④)	60(④)	69(④)	63(④)	66(④)	72(④)	76(④)	75(④)	65(④)
	東京向	448(②) <453(②)> [273(②)]	448(②) <468(②)> [458(②)]	440(①) <493(②)> [453(②)]	445(①) <505(①)>	485(①) <510(①)>	400(①) <495(①)>	380(①) <405(①)>	385(①) <410(①)> [430(①)]	415(①) <495(①)>	483(②) <520(①)>	530(①) <530(①)>	445(①) <535(①)> [410(①)]
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(①) [66(①)]	120(①) [60(①)]	120(①) [100(③)]	120(①) [102(③)]	120(①)	120(①)	120(①) [60(①)]	120(①) [90(①)]	120(①) [90(①)]	120(①)	120(①)	120(①)
	中部向	120(①) [82(①)]	120(①) [60(①)]	120(①) [112(③)]	120(①) [112(③)]	120(①)	120(①)	120(①) [60(①)]	120(①) [90(①)]	120(①) [90(①)]	120(①)	120(①)	120(①)
中部関西間連系線 注1)	中部向	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④) [35(④)]
	関西向	158(④)	154(④)	164(④)	173(④)	178(④)	前半 167(④) 後半 160(④)	157(④)	前半 162(④) 後半 170(④)	184(④)	195(④)	187(④)	前半 183(④) [60(④)] 後半 162(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) [0(①)]	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) [0(①)]	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	130(④) [6(④)]	130(④) [6(④)]	130(④) [6(④)]	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④) [7(④)]
	関西向	161(②) [50(④)]	161(②) [50(④)]	171(②) [50(④)]	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②) [70(④)]
関西中国間連系線 注1)	関西向	390(③) [278(①)]	390(③) [278(①)]	390(③) [300(③)]	405(③) [300(③)]	405(③)	前半 405(③) [329(①)] 後半 390(③) [370(③)]	390(③) [380(③)]	390(③) [278(①)]	395(③)	395(③)	395(③)	前半 395(③) 後半 390(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①) [70(①)]	140(①) [70(①)]	140(①) [70(①)]	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) [70(①)]
	四国向	140(①) [70(①)]	140(①) [70(①)]	140(①) [70(①)]	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) [70(①)]
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) [25(④)]	120(①) [25(④)]	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) [26(④)]
中国九州間連系線 注1)	中国向	224(④)	228(④) [101(④)]	234(④) [157(④)]	243(④)	246(④)	前半 239(④) 後半 229(④)	228(④)	前半 232(④) 後半 243(④)	253(④)	266(④)	261(④)	前半 259(④) 後半 232(④)
	九州向	44(④)	45(④)	47(④)	50(④)	50(④)	前半 48(④) 後半 47(④)	44(④)	前半 46(④) 後半 48(④)	51(④)	52(④)	51(④)	前半 50(④) 後半 46(④)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【 】内の数字は、作業時の運用容量を示す。

< >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流通設備等の作業停止を考慮して毎日に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

注1) 9月、11月、3月における「前半」:15日まで、「後半」:16日以降

I-2. 平成29年度(2017年度)の連系線の運用容量(平日:夜間帯)

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線	東北向	55(④)	51(④)	51(④)	54(④)	50(④)	56(④)	52(④)	55(④)	62(④)	68(④)	66(④)	59(④)
	東京向	448(②) <453(②)> 【298(②)】	423(②) <443(②)> 【428(②)】	465(①) <513(②)> 【443(②)】	470(①) <553(②)>	510(①) <553(②)>	385(①) <510(①)>	375(①) <390(①)>	360(①) <385(①)>	380(①) <478(②)>	468(②) <485(①)>	480(①) <480(①)>	400(①) <525(①)> 【405(①)】
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(①) 【66(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①) 【100(③)】	120(①) 【102(③)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)
	中部向	120(①) 【82(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①) 【112(③)】	120(①) 【112(③)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)
中部関西間連系線 注1)	中部向	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	136(④)	129(④)	133(④)	138(④)	144(④)	前半 140(④) 後半 134(④)	126(④)	前半 134(④) 後半 142(④)	154(④)	164(④)	166(④)	前半 157(④) 後半 141(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	60(④) 【3(④)】	60(④) 【3(④)】	60(④) 【3(④)】	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④) 【5(④)】
	関西向	161(②) 【50(④)】	161(②) 【50(④)】	171(②) 【50(④)】	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②) 【70(④)】
関西中国間連系線 注1)	関西向	390(③) 【278(①)】	390(③) 【278(①)】	390(③)	405(③)	405(③)	前半 405(③) 後半 390(③)	390(③)	390(③)	395(③)	395(③)	395(③)	前半 395(③) 後半 390(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
	四国向	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【23(④)】	120(①) 【23(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【24(④)】
中国九州間連系線 注1)	中国向	202(④)	194(④) 【101(④)】	197(④) 【157(④)】	202(④)	201(④)	前半 201(④) 後半 197(④)	192(④)	前半 201(④) 後半 209(④)	222(④)	230(④)	235(④)	前半 229(④) 後半 211(④)
	九州向	40(④)	39(④)	40(④)	42(④)	42(④)	前半 41(④) 後半 40(④)	38(④)	前半 40(④) 後半 42(④)	44(④)	45(④)	45(④)	前半 44(④) 後半 41(④)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【】内の数字は、作業時の運用容量を示す。
 < >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流通設備等の作業停止を考慮して日毎に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)
 具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

注1) 9月、11月、3月における「前半」:15日まで、「後半」:16日以降

I-3. 平成29年度(2017年度)の連系線の運用容量 (休日：昼間帯)

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線	東北向	58(④)	52(④)	56(④)	60(④)	57(④)	62(④)	55(④)	60(④)	64(④)	61(④)	69(④)	61(④)
	東京向	448(②) <453(②)> 【273(②)】	383(②) <468(②)> 【458(②)】	440(①) <493(②)>	465(①) <505(①)>	485(①) <510(①)>	400(①) <410(①)>	355(①) <405(①)>	385(①) <385(①)>	415(①) <495(①)>	483(②) <520(①)>	530(①) <530(①)>	445(①) <520(①)> 【410(①)】
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(①) 【60(③)】	120(①) 【67(③)】	120(①) 【70(①)】	120(①) 【102(③)】	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
	中部向	120(①) 【112(③)】	120(①) 【82(①)】	120(①) 【82(①)】	120(①) 【112(③)】	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
中部関西間連系線 注1)	中部向	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	125(④)	122(④)	128(④)	143(④)	150(④)	前半 137(④) 後半 127(④)	123(④)	前半 133(④) 後半 140(④)	156(④)	156(④)	150(④)	前半 146(④) 後半 134(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	60(④) 【3(④)】	60(④) 【3(④)】	60(④) 【3(④)】	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④) 【4(④)】
	関西向	161(②) 【50(④)】	161(②) 【50(④)】	171(②) 【50(④)】	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②) 【70(④)】
関西中国間連系線 注1)	関西向	390(③) 【278(①)】	390(③) 【278(①)】	390(③)	405(③)	405(③)	前半 405(③) 【329(①)】 後半 390(③) 【370(③)】	390(③) 【370(③)】	390(③) 【278(①)】	395(③)	395(③)	395(③)	前半 395(③) 後半 390(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①) 【70(③)】	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
	四国向	140(①) 【70(③)】	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【22(④)】	120(①) 【21(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【23(④)】
中国九州間連系線 注1)	中国向	182(④)	180(④) 【157(④)】	187(④)	203(④)	210(④)	前半 198(④) 後半 186(④)	184(④)	前半 191(④) 後半 200(④)	217(④)	216(④)	215(④)	前半 210(④) 後半 197(④)
	九州向	39(④)	38(④)	40(④)	44(④)	46(④)	前半 42(④) 後半 41(④)	38(④)	前半 41(④) 後半 41(④)	46(④)	44(④)	43(④)	前半 42(④) 後半 39(④)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【 】内の数字は、作業時の運用容量を示す。

< >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流通設備等の作業停止を考慮して日毎に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

注1) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

I-4. 平成29年度(2017年度)の連系線の運用容量 (休日：夜間帯)

(万kW) **6**

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線	東北向	54(④)	49(④)	51(④)	54(④)	49(④)	56(④)	51(④)	54(④)	66(④)	62(④)	67(④)	58(④)
	東京向	448(②) <453(②)> 【298(②)】	343(②) <443(②)> 【428(②)】	465(①) <513(②)>	490(①) <553(②)>	510(①) <553(②)>	385(①) <420(①)>	355(①) <375(①)>	360(①) <360(①)>	380(①) <478(②)>	468(②) <485(①)>	480(①) <480(①)>	400(①) <475(①)> 【405(①)】
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(①) 【60(③)】	120(①) 【67(③)】	120(①) 【100(③)】	120(①) 【102(③)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)
	中部向	120(①) 【112(③)】	120(①) 【82(①)】	120(①) 【112(③)】	120(①) 【112(③)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)
中部関西間連系線 注1)	中部向	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	121(④)	118(④)	119(④)	124(④)	129(④)	前半 120(④) 後半 118(④)	113(④)	前半 119(④) 後半 127(④)	138(④)	151(④)	141(④)	前半 143(④) 後半 130(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	60(④) 【3(④)】	60(④) 【2(④)】	60(④) 【2(④)】	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④) 【4(④)】
	関西向	161(②) 【50(④)】	161(②) 【50(④)】	171(②) 【50(④)】	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②) 【70(④)】
関西中国間連系線 注1)	関西向	390(③) 【278(①)】	390(③) 【278(①)】	390(③)	405(③)	405(③)	前半 405(③) 後半 390(③)	390(③)	390(③)	395(③)	395(③)	395(③)	前半 395(③) 後半 390(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①) 【70(③)】	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(③)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
	四国向	140(①) 【70(③)】	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(③)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(③)】
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【22(④)】	120(①) 【21(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【23(④)】
中国九州間連系線 注1)	中国向	176(④)	171(④) 【157(④)】	173(④)	181(④)	187(④)	前半 178(④) 後半 175(④)	171(④)	前半 177(④) 後半 188(④)	199(④)	204(④)	201(④)	前半 200(④) 後半 186(④)
	九州向	37(④)	36(④)	37(④)	39(④)	41(④)	前半 38(④) 後半 37(④)	36(④)	前半 37(④) 後半 38(④)	41(④)	43(④)	41(④)	前半 41(④) 後半 39(④)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【】内の数字は、作業時の運用容量を示す。

< >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流通設備等の作業停止を考慮して日毎に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

注1) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

Ⅱ-1. 平成30年度(2018年度)の連系線の運用容量 (平日：昼間帯)

(万kW)

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①) [0(①)]	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①) [0(①)]	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線	東北向	65(④)	62(④)	64(④) [236(①)]	67(④)	60(④)	69(④)	63(④)	67(④)	72(④)	76(④)	75(④)	67(④) [236(①)]
	東京向	[395(①)]	[415(①)]	[236(①)]	455(①) <535(①)> [410(①)]	515(①) <540(①)>	430(①) <445(①)>	435(①) <435(①)>	440(①) <450(①)>	405(①) <485(①)>	505(①) <520(①)>	505(①) <505(①)>	510(①) <510(①)> [236(①)]
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(①) [60(③)]	120(①) [67(③)]	120(①) [60(①)]	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) [90(①)]	120(①) [90(①)]	120(①) [90(①)]	120(①)	120(①)	120(①) [90(①)]
	中部向	120(①) [90(①)]	120(①) [90(①)]	120(①) [60(①)]	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) [82(③)]	120(①) [90(①)]	120(①) [90(①)]	120(①)	120(①)	120(①) [90(①)]
中部関西間連系線 注1)	中部向	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)
	関西向	158(④)	154(④)	163(④)	173(④)	178(④)	前半 166(④) 後半 159(④)	157(④)	前半 161(④) 後半 170(④)	184(④)	194(④)	186(④)	前半 183(④) 後半 161(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) [0(①)]	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) [0(①)]	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	130(④) [6(④)]	130(④) [6(④)]	130(④) [6(④)]	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)
	関西向	171(②) [70(④)]	171(②) [70(④)]	171(②) [70(④)]	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)
関西中国間連系線 注1)	関西向	390(③) [300(③)]	390(③) [329(①)]	390(③) [329(①)]	405(③)	405(③)	前半 405(③) [370(③)] 後半 390(③) [329(①)]	390(③) [329(①)]	390(③) [329(①)]	395(③) [329(①)]	395(③)	395(③)	前半 395(③) 後半 390(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①) [70(③)]	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	140(①) [70(③)]	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) [25(④)]	120(①) [25(④)]	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線 注1)	中国向	224(④)	228(④)	234(④)	243(④)	246(④)	前半 239(④) 後半 229(④)	228(④) [186(④)]	前半 232(④) [186(④)] 後半 243(④)	253(④)	266(④)	261(④)	前半 258(④) 後半 232(④)
	九州向	44(④)	45(④)	47(④)	50(④)	50(④)	前半 48(④) 後半 47(④)	44(④)	前半 46(④) 後半 48(④)	51(④)	52(④)	51(④)	前半 50(④) 後半 46(④)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【 】内の数字は、作業時の運用容量を示す。

< >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流通設備等の作業停止を考慮して日毎に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

注1) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

Ⅱ-2. 平成30年度(2018年度)の連系線の運用容量 (平日：夜間帯)

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線	東北向	55(④)	51(④)	53(④) 【236(①)】	54(④)	50(④)	56(④)	52(④)	55(④)	62(④)	68(④)	66(④)	61(④) 【236(①)】
	東京向	【405(①)】	【408(②)】	【236(①)】	435(①) <538(②)> 【390(①)】	515(①) <548(②)>	415(①) <425(①)>	410(①) <410(①)>	405(①) <415(①)>	400(①) <485(①)>	490(①) <490(①)>	475(①) <475(①)>	515(①) <515(①)> 【236(①)】
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(①) 【60(③)】	120(①) 【67(③)】	120(①) 【66(③)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(③)】	120(①) 【90(③)】	120(①) 【90(③)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(③)】
	中部向	120(①) 【90(③)】	120(①) 【90(③)】	120(①) 【90(③)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【82(③)】	120(①) 【90(③)】	120(①) 【90(③)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(③)】
中部関西間連系線 注1)	中部向	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	135(④)	129(④)	132(④)	138(④)	144(④)	前半 140(④) 後半 134(④)	125(④)	前半 134(④) 後半 142(④)	154(④)	163(④)	166(④)	前半 157(④) 後半 141(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	60(④) 【3(④)】	60(④) 【3(④)】	60(④) 【3(④)】	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)
	関西向	171(②) 【70(④)】	171(②) 【70(④)】	171(②) 【70(④)】	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)
関西中国間連系線 注1)	関西向	390(③)	390(③) 【329(①)】	390(③) 【329(①)】	405(③)	405(③)	前半 405(③) 後半 390(③) 【329(①)】	390(③) 【329(①)】	390(③)	395(③)	395(③)	395(③)	前半 395(③) 後半 390(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①) 【70(③)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	140(①) 【70(③)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【24(④)】	120(①) 【23(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線 注1)	中国向	202(④)	194(④)	197(④)	202(④)	201(④)	前半 201(④) 後半 197(④)	192(④) 【186(④)】	前半 201(④) 【186(④)】 後半 209(④)	222(④)	230(④)	235(④)	前半 229(④) 後半 211(④)
	九州向	40(④)	39(④)	40(④)	42(④)	42(④)	前半 41(④) 後半 40(④)	38(④)	前半 40(④) 後半 42(④)	44(④)	45(④)	45(④)	前半 44(④) 後半 41(④)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。 【 】内の数字は、作業時の運用容量を示す。
 < >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流通設備等の作業停止を考慮して日毎に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)
 具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照
 注1) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

II-3. 平成30年度(2018年度)の連系線の運用容量 (休日：昼間帯)

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①) [0(①)]	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) [0(①)]	60(①)	60(①) [30(①)]	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①) [0(①)]	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) [0(①)]	60(①)	60(①) [30(①)]	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線	東北向	58(④)	52(④)	58(④)	60(④)	57(④)	62(④)	55(④)	60(④)	65(④)	61(④)	69(④)	63(④) [236(①)]
	東京向	[395(①)]	[415(①)]	[315(①)]	480(①) <520(①)> [415(①)]	505(①) <535(①)>	430(①) <445(①)>	435(①) <435(①)>	440(①) <450(①)>	435(①) <520(①)>	505(①) <520(①)>	505(①) <505(①)>	430(①) <473(②)> [236(①)]
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(①) [60(③)]	120(①) [67(③)]	120(①) [66(③)]	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) [90(①)]	120(①) [90(①)]	120(①) [90(①)]	120(①)	120(①)	120(①) [90(①)]
	中部向	120(①) [90(①)]	120(①) [90(①)]	120(①) [90(①)]	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) [82(③)]	120(①) [90(①)]	120(①) [90(①)]	120(①)	120(①)	120(①) [90(①)]
中部関西間連系線 注1)	中部向	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④) [20(④)]
	関西向	125(④)	121(④)	128(④)	143(④)	149(④)	前半 136(④) 後半 127(④)	123(④)	前半 132(④) 後半 139(④)	156(④)	156(④)	150(④)	前半 146(④) 後半 133(④) [38(④)]
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) [0(①)]	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) [0(①)]	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	60(④) [3(④)]	60(④) [3(④)]	60(④) [3(④)]	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)
	関西向	171(②) [70(④)]	171(②) [70(④)]	171(②) [70(④)]	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)
関西中国間連系線 注1)	関西向	390(③) [300(③)]	390(③) [329(①)]	390(③) [329(①)]	405(③)	405(③)	前半 405(③) [370(③)] 後半 390(③) [329(①)]	390(③) [329(①)]	390(③)	395(③)	395(③)	395(③)	前半 395(③) 後半 390(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①) [70(①)]	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	140(①) [70(①)]	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) [22(④)]	120(①) [21(④)]	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線 注1)	中国向	182(④)	180(④)	187(④)	203(④)	210(④)	前半 198(④) 後半 186(④)	184(④) [184(④)]	前半 [186(④)] 後半 200(④)	217(④)	216(④)	215(④)	前半 210(④) 後半 197(④)
	九州向	39(④)	38(④)	40(④)	44(④)	46(④)	前半 42(④) 後半 41(④)	38(④)	前半 41(④) 後半 42(④)	46(④)	44(④)	43(④)	前半 42(④) 後半 39(④)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【 】内の数字は、作業時の運用容量を示す。

< >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流通設備等の作業停止を考慮して日毎に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

注1) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

Ⅱ-4. 平成30年度(2018年度)の連系線の運用容量 (休日：夜間帯)

(万kW) **10**

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①) [0(①)]	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) [0(①)]	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①) [0(①)]	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) [0(①)]	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線	東北向	55(④)	49(④)	53(④)	54(④)	49(④)	56(④)	51(④)	55(④)	66(④)	62(④)	67(④)	60(④) [236(①)]
	東京向	[405(①)]	[408(②)]	[313(②)]	485(①) <528(②)> [395(①)]	515(①) <548(②)>	415(①) <425(①)>	410(①) <410(①)>	405(①) <415(①)>	400(①) <530(①)>	490(①) <490(①)>	475(①) <475(①)>	430(①) <473(②)> [236(①)]
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(①) [60(③)]	120(①) [67(③)]	120(①) [66(③)]	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) [90(③)]	120(①) [90(③)]	120(①) [90(③)]	120(①)	120(①)	120(①) [90(③)]
	中部向	120(①)	120(①) [90(①)]	120(①) [90(①)]	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) [82(③)]	120(①) [90(①)]	120(①) [90(①)]	120(①)	120(①)	120(①) [90(①)]
中部関西間連系線 注1)	中部向	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	121(④)	117(④)	118(④)	123(④)	129(④)	前半 120(④) 後半 118(④)	113(④)	前半 119(④) 後半 127(④)	137(④)	150(④)	141(④)	前半 142(④) 後半 130(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) [0(①)]	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) [0(①)]	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	60(④) [3(④)]	60(④) [2(④)]	60(④) [2(④)]	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)
	関西向	171(②) [70(④)]	171(②) [70(④)]	171(②) [70(④)]	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)
関西中国間連系線 注1)	関西向	390(③)	390(③) [329(①)]	390(③) [329(①)]	405(③)	405(③)	前半 405(③) 後半 390(③) [329(①)]	390(③) [329(①)]	390(③)	395(③)	395(③)	395(③)	前半 395(③) 後半 390(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①) [70(③)]	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	140(①) [70(③)]	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) [22(④)]	120(①) [21(④)]	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線 注1)	中国向	176(④)	171(④)	173(④)	181(④)	187(④)	前半 178(④) 後半 175(④)	171(④) [171(④)]	前半 [177(④)] 後半 188(④)	199(④)	204(④)	201(④)	前半 200(④) 後半 186(④)
	九州向	37(④)	37(④)	37(④)	39(④)	41(④)	前半 38(④) 後半 37(④)	36(④)	前半 37(④) 後半 38(④)	41(④)	43(④)	41(④)	前半 41(④) 後半 39(④)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【】内の数字は、作業時の運用容量を示す。
 < >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流通設備等の作業停止を考慮して日毎に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)
 具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

注1) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

Ⅲ. 平成31～38年度(2019～2026年度)の連系線の運用容量(長期計画)

(万kW) **11**

連系線	潮流方向	平成31年度 (2019年度)	平成32年度 (2020年度)	平成33年度 (2021年度)	平成34年度 (2022年度)	平成35年度 (2023年度)	平成36年度 (2024年度)	平成37年度 (2025年度)	平成38年度 (2026年度)
北海道本州間連系設備	北海道向	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)
	東北向	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)
東北東京間連系線	東北向	60(④) 【51(④)】	61(④) 【51(④)】	61(④) 【51(④)】	62(④) 【51(④)】	62(④) 【51(④)】	63(④) 【51(④)】	63(④) 【51(④)】	64(④) 【51(④)】
	東京向	503(②) 【380(①)】	553 ¹⁾ (②) 【380(①)】	553(②) 【380(①)】	553(②) 【380(①)】	623(②) 【380(①)】	623(②) 【380(①)】	623(②) 【380(①)】	623(②) 【380(①)】
東京中部間連系設備 (新宮濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(①)	120(①)	210(①)	210(①)	210(①)	210(①)	210(①)	210(①)
	中部向	120(①)	120(①)	210(①)	210(①)	210(①)	210(①)	210(①)	210(①)
中部関西間連系線	中部向	250(④) 【200(④)】	250(④) 【200(④)】	250(④) 【200(④)】	250(④) 【200(④)】	250(④) 【200(④)】	250(④) 【200(④)】	250(④) 【200(④)】	250(④) 【200(④)】
	関西向	178(④) 【113(④)】	178(④) 【113(④)】	178(④) 【113(④)】	178(④) 【113(④)】	178(④) 【113(④)】	178(④) 【113(④)】	178(④) 【113(④)】	178(④) 【113(④)】
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	130(④) 【60(④)】	130(④) 【60(④)】	130(④) 【60(④)】	130(④) 【60(④)】	130(④) 【60(④)】	130(④) 【60(④)】	130(④) 【60(④)】	130(④) 【60(④)】
	関西向	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)	171(②)
関西中国間連系線	関西向	405(③)	405(③)	405(③)	405(③)	405(③)	405(③)	405(③)	405(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線	中国向	278(①) 【171(④)】	278(①) 【171(④)】	278(①) 【171(④)】	278(①) 【171(④)】	278(①) 【171(④)】	278(①) 【171(④)】	278(①) 【171(④)】	278(①) 【171(④)】
	九州向	52(④) 【36(④)】	52(④) 【36(④)】	52(④) 【36(④)】	52(④) 【36(④)】	52(④) 【36(④)】	52(④) 【36(④)】	52(④) 【36(④)】	52(④) 【36(④)】



【 】内の数字は、最大需要時以外など空容量が小さくなると予想される値を示す。(東北東京間(東京向)は、平成29年度における最小値を参考記載)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。

1) 「東北東京間連系線に係る広域系統整備計画」(H29.2.3策定)にて示された短工期対策により、平成32年度以降東京向きの運用容量が50万kW増加する見込みであり、それを反映済み。(広域系統整備委員会で検討された入札により、1社が利用者として選定済み)

平成29年度（8月平日昼間帯）における運用容量算定結果

※各エリア内数値は、平成29年度送電端最大3日平均電力予想（H3）を表す。

-  . . . 周波数変換所
-  . . . 交直変換所

